

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 366 号	氏名	安藤 優子
学位審査委員	主査	丹羽 正美	
	副査	進藤 裕幸	
	副査	篠原 一之	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、痙縮の治療方法である髄腔内バクロフェン療法における耐性形成の機序を解明し、耐性抑制法を探索しようとしたもので目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 アフリカツメガエル卵母細胞 GABA<sub>B</sub> 受容体発現系を用い、二極膜電位固定法など確立された細胞電気生理学的手法や発現タンパク複合体検出法などを用いて GABA<sub>B</sub> 受容体機能を解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、バクロフェンによる GABA<sub>B</sub> 受容体二量体と GRK4 あるいは GRK5 との複合体形成が髄腔内バクロフェン療法における耐性発現に関与し、ケタミンが複合体形成を抑制することを明らかにし、今後の痙縮治療学的研究の進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は麻酔治療学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			